

2022年9月29日

各位

会社名 株式会社オーネックス
代表者名 代表取締役社長 大屋 和雄
(コード番号 5987)

問合せ先 取締役管理本部副本部長 田島 圭子
(TEL.046-285-3664)

上場維持基準の適合に向けた計画書

当社は、2022年4月の株式会社東京証券取引所の市場区分見直しに際し、スタンダード市場を選択しております。しかしながら、基準日時点で当該市場の上場維持基準を充たしていないことから、下記のとおり上場維持基準の適合に向けた計画書を作成いたしましたので、お知らせいたします。

記

1. 当社の上場維持基準の適合状況及び計画期間

当社の基準日時点におけるスタンダード市場の上場維持基準の適合状況は、以下のとおりとなっており、流通株式時価総額については基準を充たしておりません。当社は、流通株式時価総額に関して、新型コロナウイルス感染症による景気低迷や半導体不足による自動車業界の低迷、ロシア・ウクライナ情勢によるエネルギーコストの上昇、物流の停滞などが解消されるまでに5年は要すると考えていますが、2027年6月期までに上場維持基準を充たすため、各種の取組みを進めてまいります。

	株主数 (人)	流通株式数 (単位)	流通株式時価 総額 (億円)	流通株式比率 (%)
当社の状況 (2022年6月30日時点)	824	8,085	6.8	48.7
上場維持基準	400	2,000	10.0	25.0
計画書に記載の項目			○	

※当社の適合状況は、株式会社東京証券取引所が基準日時点で把握している当社の株等の分布状況等をもとに算出を行ったものです。

2. 上場維持基準の適合に向けた取組の基本方針、課題及び取組内容

(1) 基本方針

流通株式時価総額の構成要素としては、「時価総額」及び「流通株式数」であると理解しております。そのため、「流通株式数」につきましては、2022年6月30日時点では8,085単位であり上場維持基準である2,000単位を上回っておりますが、更なる増加を目指します。そして、スタンダード市場上場維持基準の永続的な適合を目指すため、時価総額の向上が優先課題であり、基準を充足できるよう取組んでまいります。

(2) 課題

新型コロナウイルス感染症による景況の悪化とともに、業績不振による株式市場からの評価悪化が株価低迷の主たる要因であると考えております。したがって、企業価値の向上に向けた施策を実行していくことと並行して、投資家等の皆様が当社に関心を持っていただく機会を多く設けていくことが重要な課題であると認識しております。

(3) 取組内容

上場維持基準である流通株式時価総額 10 億円を目標とすると、現在の流通株式数 8,085 単位から上場維持基準を満たす株価を算出すると 1,236 円となります。

理論株価 = EPS × PER とし、PER を 8.65 倍¹とすると、株価 1,236 円を満たす EPS は 142.89 円となります。

当社は、株価上昇のための施策として、事業収益性の強化、IR 活動の強化を行い、流通株式時価総額 10 億円を達成することを目標とします。

以下、具体策を示します。

3 実施事項

(1) 収益性の向上

① 事業構造改革の推進

ア 継続実施中の事項

- a. 2021 年 3 月に長野工場の閉鎖を決定したことから、2020 年 12 月から長野工場を受注していた製品を東松山工場及び厚木工場へ集中し生産体制を効率化し、収益性を向上させております。
- b. 2021 年 12 月に山口第 1 工場の敷地を拡張し建屋を増築し、真空熱処理炉を新設し、受注増に対応しております。
- c. 2022 年 1 月以降、山口工場は、受注量など景況に応じて第 1 工場と第 2 工場の機動的な運用体制とすることで製造経費等を節減しております。

イ 実施していく事項

「厚木工場と東松山工場」、「山口工場とオーネックステックセンター」は、それぞれ一人の工場長が指揮監督することにより、迅速な意思決定ができ、人材も有効的に活用できるなど柔軟に運用していきます。そして、2023 年 6 月期までに、一体化運営をさらに深化させます。

② オーネックステックセンターの成長

ア 継続実施中の事項

子会社であるオーネックステックセンターは、2014 年から三重県亀山市にて操業を開始し、当初計画よりも早く操業開始から 5 年で黒字化を達成しており、さらに受注の増

¹ 2022 年 6 月期の数値をもとに当社が算出

PER = 事業年度の末日以前 3 か月間の日々の最終価格の平均株価 (a) ÷ 1 株当たり当期純利益 (b)。 (a) = 845.30 円、(b) = 97.71 円。

加に対応すべく、熱処理炉を1基増設しております。

イ実施していく事項

- a. 東海、中部、関西方面を主な事業エリアとし、自動車関連が中心の他工場とは業種割合が異なり、産業工作機械関連の割合が多いのが特徴です。当社グループの経営戦略として飛躍的な成長が期待できる東海、近畿圏をカバーし、業種別のシェアを一つに絞らず、2027年6月期までに、さらに市場浸透、市場開拓を進めて行きます。
- b. 熱処理の自動化も進んでおり生産効率が向上していることから、他工場でオーバーフローしそうな製品を移管し当社で処理するなど、2023年6月期までに連携をとって対応してまいります。

③ コスト削減（コスト構造の見直し）

ア継続実施中の事項

- a. カーボンニュートラルにも寄与できる自家消費型太陽光発電システムを設置（4工場中2工場に設置）し電力費の節減を図っています。
- b. 各熱処理設備の製品充填率を高めることで生産効率も高めるなど、製造経費の節減を図っています。

イ実施していく事項

- a. 2022年度中に各工場の照明をLED化します。
- b. 電気の契約会社の見直しや、人手不足に対応するため熱処理設備の自動化、自動防炭塗布装置の本格稼働など手動から自動への転換を、2027年6月期までに推進し、経費を節減し収益性の向上を図ります。

④ 熱処理単価の見直し

ア継続実施中の事項

新型コロナウイルス感染症の世界的な拡大の影響により、原材料費、エネルギーコスト、労務費などの高騰が続いており、全社的な熱処理単価の値上げに踏み切りました。熱処理の取引先約150社と2022年3月から交渉しており、そのうち約6～7割が値上げに同意して頂いています。

イ実施していく事項

粘り強く残りの取引先と2023年6月期までに値上げ交渉を継続し、成立させていきます。熱処理単価の見直しにより、売上高約10%の増加が見込まれます。

(2) 株価の向上

① I R活動の活性化

新型コロナウイルスの感染拡大もあり、当社のI R活動は必要最小限の情報開示に留まっており、企業活動の周知を積極的に行ってきたとは言い難い状況でありました。I Rは、株主の皆様をはじめ、株式市場における当社の認知度、注目度を向上させる重要なツールであることを再認識し、当社の魅力を積極的に情報発信してまいります。

ア 継続実施中の事項

- a. 決算短信の解説用として「決算説明資料」を作成し、当社 Web サイトへ継続して公表しております。
- b. IR 情報をはじめ企業情報を積極的に発信するため、広報サポート会社と協力し、クオリティを高めた決算説明資料を、YouTube、Twitter、Facebook で閲覧できるように配信しております。

イ 実施していく事項

- a. アナリスト等へ向けた当社のアピールの場を 2023 年 6 月期までに計画します。
- b. 当社 Web サイトをリニューアルし、興味を引く内容へ 2023 年 6 月期までに改修していきます。

② 流通株式数の拡大

取引先との関係維持、強化及び収益機会の獲得を目的に投資株式を保有しておりますが、資本効率の向上のため、政策保有株の解消及び株式の売却について検討、実行してまいります。

ア 既実施事項

2021 年から交渉を開始し、上位株主等 2 件から当社株の売却を完了しております。

イ 実施していく事項

上位株主等 2 件と交渉を継続中であり、2023 年 6 月期までに政策保有株の解消及び株式の売却交渉を推進していきます。

(3) 実績と信頼

株価向上のためには、業績を向上させ企業価値を高めることと株式市場で評価を得ることが必要です。

当社は、自ら製品を生産する業態ではないことから事業規模や事業エリアの拡大など中期計画を策定することは困難であります。

しかしながら、当社は操業 70 年を越え、安定経営を望まれる株主様からは長期に渡り支持を得ていることから、さらに技術を磨き、環境へ配慮した適切な熱処理設備への変換などを実行しつつ、実績と信頼を積み重ねていき、株価向上へ繋げていきます。

(4) 企業統治等

① コーポレートガバナンスの強化

「コーポレートガバナンスの基本的な考え方」を基に、ガバナンス強化のために、以下を実践することで、持続的な成長及び長期的な企業価値の向上を図っていきます。

ア 法令の遵守及び社会的な倫理や企業モラルを守ります。

イ 適切に内部監査を行い、定められた規則類に則り各自が業務を行っているかを管理するための内部統制が機能しています。

ウ BCP 対策などリスクマネジメントを適切に実施しています。

② SDGs への取組み

当社はオーネックスグループ企業行動憲章を踏まえ、コンプライアンスを経営の根幹

と捉えて推進するために、「コーポレートガバナンス・内部統制」を堅持し、環境・社会・ガバナンス（ESG）に対する企業としての責任を果たしていきます。

そして、SDGs への取組みの一つとして、カーボンニュートラルな社会の実現が叫ばれるなか、オーネックステックセンター（亀山市）及び山口工場に太陽光発電設備を設置し、CO2 削減及び節電に寄与しています。

その他、下記の SDGs の各目標（番号は SDGs の目標番号）などは、個人レベルで実行可能なものもあり、一人一人に意識付けを行い目標達成へ寄与してまいります。

5. ジェンダー平等を実現しよう
7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに
8. 働きがいも経済成長も
12. つくる責任 つかう責任
13. 気候変動に具体的な対策を
14. 海の豊かさを守ろう
15. 陸の豊かさを守ろう

以上